

## 課題解決における新聞づくりの役割 —学校新聞と地域新聞を事例として—

名城大学附属高等学校

これまで、校内の課題解決を目的に「名城タイムス」という学校新聞を作成してきました。私たちがテーマとして取り上げた課題は、校則の意義と必要性についてです。現在の校則に対する疑問を解消すべく先生方へのインタビューを行った結果、現在の校則に意義を感じていないとの声が多数ありました。一方で、校則の意味を明らかにした意見も見られました。これらの結果から、多くの人から存在意義に疑問を持たれている校則の必要性について主張してきました。反対にそれらの校則について挙げられた明確な意味も他の生徒と共有してきました。こうした過程を新聞にまとめることを通して、世論を形成するという新聞の役割を学ぶことができました。

次の段階として、一連の新聞づくり、プレ会での発表を終えた現時点での改善すべき4点について考えました。1つ目は、新聞づくりの中で得られた気づきを伝えるということです。実際に、新聞は様々な視点からの意見や自分たちの主張を載せることで紙面上での討論を可能にすること、さらには、その可能性を秘めた新聞が問題解決の橋渡しの役割を担うことを実感しました。2つ目に、読み手への意識の欠如です。プレ会后、私たちが作成した新聞、他のグループが作成した新聞を公開し、批評しました。読み手の視点でいくつかの新聞を見ることができ、更なる高みを目指せると思いました。3つ目は、「人権」からの視点です。校則と人権の関係を考えたところ、意味のある校則は生徒の人権を守る役割を果たすが、意味を失った校則は、多様性を壊し、人権を奪うことにつながると思いました。4つ目は、今後の活動である地域新聞作成の意義です。学校新聞で新聞の役割の重要性を感じることができたからこそ、地域の課題へと視野を拡大していきたいと思えます。それに加え、新聞は他の手段と比較すると、周りの環境に左右されずに課題を伝えられるという利点があると思えます。

これらの活動、ブラッシュアップを踏まえ、地域の課題解決へと視点を広げていくことが今後の目的です。地域の課題を見つけ、解決策を考え、理想の街を創る一歩を踏み出していきたいです。その手段として、世論を形成する力を持ち、問題解決への橋渡しの役割までも担う新聞の効果を十分に発揮させられる地域新聞を作成していきたいです。この活動を通して、地域の課題解決へと歩みを進めていきたいです。